

# 卒業するみなさんへ

## 副学長・学部長からの応援メッセージ

ご卒業(修了)おめでとうございます。5人の副学長と9人の学部長からいただいた応援メッセージをお届けします。最新の大学の情報は、ホームページやSNSを通じて積極的に発信していきますので、今後も本学の活動や取組みを応援してください。教職員一同、皆さんの今後の活躍を心からお祈り申し上げます。

**心の想いが未来を拓く**

グローバル化推進担当副学長 杉村 美紀

上智大学を巣立っていく皆さん、ご卒業おめでとうございます。先日、卒業生から大変嬉しいメールが届きました。卒業から数年が経ち、今春から故郷を離れて、高校の英語の専任教員として歩み始めることになったと書かれており、卒業後も、様々なことを自分の力で考え、信念をもって教職の道を選んだことに対する思いが淡々と綴られていました。そこには、在学時のゼミで、いつも静かに真面目に取り組んでいた姿とは異なる力強さ、そして困難な課題にも、他者を思いながら「今を大切に」して対応しようとするしなやかな姿勢が感じられました。ソフィアンとして新たな門出を迎えられた皆さん、これからがまた新たな挑戦の始まりです。皆さんそれぞれの心の想いが未来を拓きます。ご自分の夢を大切に、勇気と自信をもって進んでいかれますよう心よりお祈り申し上げます。

**皆さんの旅立ちを心からお祝します**

総合グローバル学部長 前嶋 和弘

ご卒業おめでとうございます。この1年間は、新型コロナウイルスの感染被害で、大変だったかと思いますが、ご友人に会う機会が減っただけでなく、もしかしたら皆さんの身近な方にも被害が及んでいるかもしれません。皆さんの心労、いかばかりかと胸が痛みます。ただ、このような時期こそ、「グローバル化とは何か」という言葉を真剣に考える良い機会かと思っています。なぜならコロナ禍は「グローバル化」の負の部分そのものだからです。感染症流行によって露わになりつつある不平等や社会・国際秩序の変化が現在進行形で動いています。人々の連帯と協力の可能性など、卒業後に皆さんがご経験になる「コロナ後」の世界はこの大きな潮流を見つめることに他なりません。皆さんの今後のご成長、とても期待しています。

**新たな世界観**

理工学部長 陸川 政弘

COVID-19の感染禍が収まらない状況下で、新たな世界へ旅立つ学生諸君を我々は希望を込めて見送りたいと思います。ここ数十年の間にもいろいろなことが起こりましたが、これほどまでに全世界を変貌させたことはありませんでした。また、残念なことこの状況は現在進行形であり、感染禍から1年を経過した今でも数ヶ月後の世界を予想することができません。このような状況下で社会に巣立つ皆さんの多くは、不安な気持ちで一杯かも知れません。しかし、今はこの世界の変貌を素直に受け入れ、皆さんの新たな価値観を築き、皆さんの希望に満ちた目で世界を俯瞰し、感染禍前の世界とは違った次元のより良い世界を築いて下さい。何時でも、何処でも、我々は皆さんを応援し続けていきます。

**希望のうちに力強く**

神学部長 川中 仁

今年度の卒業生・修了生の皆さんが最終学年を過ごした2020年度は、全世界がコロナによって振り回され、機能停止状態に陥った一年間でした。ただ、完全な収束にはまだまだ程遠いとはいえ、新規感染者数も緩やかに減少する中で、長らく待たれていたワクチンの接種も少しずつ始まり、ようやくコロナ収束への微かな希望の光がみえてきました。これはひとえに、コロナという未知の敵を前にして、全世界の人びとが力を結集し、全力で問題解決のために奮闘してきたことによるものです。今後の人生の歩みの中で、皆さんも、大なり小なり様々な困難に直面することでしょう。ですが、どのような困難な状況にあっても、決して希望を失うことなく、問題解決のために全力を尽くすことで、一つひとつの困難を力強く克服していきましょう。

**おつかれさまでした**

本年度退職教職員

長年本学の教育・研究に尽力いただいた教職員が、3月31日付で退職する。退職者を代表して、理工学研究科の川中彰教授と、同じく3月末で本学を離れる言語教育研究センターの吉田研作特任教授に寄稿いただいた。

【専任教員の定年退職】  
長沼範良(法学研究科 法曹養成専攻)、福井直樹(言語科学研究科言語学専攻)、原恵子(同)、光延一郎(神学部神学)、豊島正之(文学部国文学科)、飯野友幸(同)、佐藤若昭(文学部法学)、矢島基英(同)、杉本徹雄(経済学部経営学科)、エレナ・トイタ(外国語学部国際言語学)、笹川(理工学部情報理工学専攻)、エレン(特別契約教授の契約期間満了)  
【特別契約教授の契約期間満了】  
奥寛晃(法学研究科法曹養成専攻)、川中彰(理工学研究科理工学専攻)、舟川一彦(文学部英文学)

【専任教員の定年退職】  
高橋正之(文学部国文学科)、樋渡由美(同)、藤田由美(同)、4月以降、福井教授、光延教授、豊島教授、飯野教授、増井教授、矢島教授、杉本教授、トイタ教授、笹川教授は、特別契約教授として引き続き在任する。

【職員】  
馬場園章子(人書局事務長)、スズル(人事課長)、藤原春(学務局事務セクター)、大竹靖(同)、田川麗代子(短期大学事務セクター)

**言葉の力を信じよう**

外国語学部長 村田 真一

卒業おめでとうございます！どうしても言葉が追いつかないような経験をして、立ち止まってしまうことがあります。そのとき、人は何をすればよいのでしょうか。これは、切実な問題として私たちの前に立ちほだかります。息をひそめてやり過ごす。痺れを切らして前のめりになる。歴史に学び、世界の人と手を携え、時宜を見きわめながら前向きに待つ。この待ち方に生きる姿勢が現われるでしょう。「待つ」ことは、時空を超え、人間存在の根源的な問いに結びつきます。地に足の着いた、真の飛躍をめざす積極的な言葉です。実は、みなさんがこのような言葉の力や大切さをしっかり学んだ場が大学だったのです。思い思いの旅立ちのプランがひとつひとつ実現するよう、そして言葉によって実在の意味を定めていく長い道のりが実り豊かであるよう、心から祈ります。

**思わぬときにこそ**

学務担当副学長 大塚 寿郎

大学生生活の最後の1年を思わぬ形で迎えることになりましたが、それでも大学での学びを最後までやり終えた皆さんに心よりのエールを送ります。いろいろと不自由を感じたことでしょうか。その分、自由であることへのありがたさを感じたかもしれません。人と会えないことで仲間といわれる喜びにあらためて気付かされたかも知れませんね。普通だったら考えもしなかったことに挑戦した人もいるでしょう。思わぬことが起こるとき、当たり前にも思っていたことが輝きをもって見えるようになることがあります。これからの人生でも、きっとまた思わぬことに出会うでしょう。そんな時、そこに意味を見出す力を大学で過ごした年月の中で身につけてくれたことと信じています。ご卒業おめでとうございます。

**困難な時代を自分の力を信じて乗り越える**

法学部長 小幡 純子

皆さんは、世界がこれまでにない難事直面している最中に、上智大学を卒業し、社会に羽ばたくという節目を迎えられます。この1年間、大学はオンライン授業になりましたが、世界的な新型コロナウイルスとの闘いの状況を見聞きしつつ、また、就職活動等を通して、ご自身がいかに行動すべきか、これから社会はいかなる方向を目指すべきかについて、皆さんそれぞれ真摯に考えてこられたのではないのでしょうか。法学の世界では、剣と天秤を持つ目隠しをした正義の女神像が、しばしば登場しますが、法学部では、様々な異なる意見、しかも新たな知見をも十分に斟酌して、自ら解決策を生み出す法的思考力を涵養することを目指してきました。困難な時代だからこそ、大学4年間で培ったご自身の力を信じて、他者の声に耳を傾けつつ、決断と判断・行動して、乗り越えていただけることを祈念しております。

**強いソフィアン**

学術研究担当副学長 江馬 一弘

皆さん、卒業・修了おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。学生生活最後の一年は、コロナのために計画通りではなかったことでしょうか。何より、キャンパスでの講義・課外活動などができなかったことは大変残念なことでした。しかし、そういう厳しい一年を乗り越えて卒業していく皆さんは、強い精神力の持ち主だと思います。コロナ以前のキャンパスでは、学生同士が協力し合い、そして教職員と学生の距離が近いという上智大学の特徴を常に感じていたと思います。これは、本学の教育精神「他者のために、他者とともに」がキャンパス全体に浸透している証拠です。社会に出ると様々な試練があると思いますが、大変な一年でも卒業を果たせた皆さんは、「他者のために」という精神を持ち続け、困難に打ち勝っていく強いソフィアンでいてください。

**私の羅針盤**

理工学研究科理工学専攻 理工学部情報理工学専攻 川中 彰

本学の理工学部電気・電子工学科に入学したのは1973年です。引き続き博士後期課程を修了し、87年から本学電気・電子工学科と理工学部再編後の情報理工学専攻の教授として勤務してきました。昨年3月に定年退職を迎えましたが、一

年間だけ大学に残り、教育研究活動を続けてきました。ここでは、教員になりての頃の思い出で、最も有意義であったと感じていることを書いてみます。講師として学科に戻ってみると、学問分野の発展に伴って必修科目が増え、留年する学生が多くなっていました。新任の講師でしたが、学科の根幹とも言えるカリキュラムの改定を考えてみると、偉い先生方から事業のことに任せ、必修科目の一部を選択必修科目と選択科目に変更し、原則として、選択必修科目の扱いを教育実施の面では必修科目のようになり、また卒業要件として科目群としての要件を設けることになりました。選択必修の厳選と卒業要件設定の議論が

**同じコロナ禍を生きる者として**

総合人間科学部長 芳賀 学

ご卒業おめでとうございます。皆さんの大学生生活の最後の1年間は、コロナ禍とともにありました。おそらく大学生活を振り返る時にコロナ禍の思い出も一緒に甦ることになるでしょう。それにしても、この間「不要不急の〇〇は自粛するように」という話を何度聞いたのでしょうか。宗教や文化を研究する私は、その度に違和感を持たざるを得ませんでした。もちろん、コロナ禍の中では、人々が集まり、相互に交流し、盛り上がり、一体感を持つ、様々な文化活動に制限が加わることはある程度仕方がないことでしょう。しかし、人が心身ともに充実して生きるためには、この「不要不急」の文化活動が「必要不可欠」であることも忘れずにいてほしいと思います。同じコロナ禍を生きる者として、皆さんの未来に「幸多かれ!!!」と最大限度のエールを贈ります。

**手探りの時代**

文学部長 服部 隆

とうとう一年間オンライン授業が続いてしまいました。望んでも体験できなかったことが皆さんあったと思います。だれもがやり場の無い想いを抱え、それをストレートに吐露したところで、なお、どう進むのか試される、そんな状況に私たちは居ます。しかし、文学部を卒業する皆さんは、過去の思想、歴史的事件、文学作品を振り返りながら、こんな閉塞した状況がいつか無かったか、そしていまを切り取る「ことば」を自分は持っているか、ずっと考えてきたことでしょうか。私たちは失うばかりではなかったはず。いま皆さんは、上智大学で磨いたイマジネーションを生かす時を迎えています。卒業するということは、それが出来ると大学が認めたということです。最初は手探りであっても、自信を持って進んでください。私たちも、卒業生とともに新たな時代を切り拓いてゆきたいと思います。

**生の輝きを感じる**

高大連携担当副学長 藤村 正之

人はいつか自分が亡くなることをわかっています。しかし、そのいつかが明日だとは考えていません。社会学者の見田宗介は「人が真正面から見ることができないものが2つある。それは太陽と生である」と言います。生はいつも輝いているのに、それに気づけないのは、いや気づかないからなのだと。明日亡くなるとなれば、今日は輝く大切な日となるでしょう。しかし、その意識は明日の死の不安を呼び起こすかもしれません。それなら、明日を明後日に、1月後に、1年後に、10年後、30年後、50年後とずらしていき、今日の大切さをかみしめられるかどうか。皆さんが、太陽のようにまぶしい生の輝きを微かにでも感じながら日々を生きていかれるよう、祈念しています。

**大学で築いたつながりを大切に**

経済学部長 蓬田 守弘

ご卒業おめでとうございます。この一年間、新型コロナで大学生生活も様変わりしました。キャンパスへの入構制限によって、大学での多様な交流活動にも大きな影響があったと感じています。コロナの時代には、密な交流は感染拡大の元凶とされますが、本来は望ましい活動であるはず。ハイテク産業の集積地である米国シリコンバレーでは、仕事帰りに一杯やりながらの交流が、新たな技術やビジネスを生み出す契機となったそうです。大学においても、学生や教員の様々な交流が相互に影響しあい、より大きな成果を生みだしていると思います。こうした交流がコロナで制限されてしまったことはとても残念です。コロナの時代だからこそ、卒業後も大学で築いたつながりを絶やすことなく、お互いに成長できることを願っています。

**上智大学と過ごした50年に感謝**

上智大学特任教授(言語教育研究センター長) 吉田 研作

いへんでしたが、学問分野を4つに明確に分け、4分野を平等に扱うことで何とか乗り切ることができました。このとき、大学の社会的使命や学科の教育理念に即してもっとを説明することの重要性を痛感しました。いま、在宅勤務や、大学では遠隔授業、オンライン講義が注目されていますが、これらうまく活用していくには、様々な部署で、若い人、がその組織の理念を羅針盤として改革を進めていくべきなのだと思います。

中学校の英語の教師になるために入学したのが1968年。学生時代に中学生在に英語を教えるプログラムSTEPをはじめ、STEPカンパニを学生と一緒作りあげました。結局中学の教師ではなく、教員養成の先生として(大学に残り、)

外国語部の助手に採用されたのが74年。その後、ミシガ大学に留学し、30年に講師として戻ってきました。それから40年。英語教育のためにSTEPの設立に加わり、国際交流の航路、航空士交通の航空士と英語能力テストやTEAPの開発、東京都の英語村(Tokyo Global Gateway)の設立にも関わりました。海外ではAsiatech Internationalの設立に参画させていただきました。長年、本学での50年を振り返ると、この50年、私は自分の夢を実現するために、学内外でやりたい放題やらせてもらいました。上智大学は本当にオープンな学校だと思っています。教職員が、団体のため、世界平和のためにTeam and Women for Others with Othersの精神の実現に向け努力していると思います。上智大学でなければ、自分から実現できなかったと思います。



**The New Social**

Koichi Nakano, Dean, Faculty of Liberal Arts

Congratulations on your graduation from Sophia University! We believe that you have what it takes to make a difference in the world that needs a lot of fixing right now. A serious challenge that you will face immediately on a personal level is to redefine "sociability" during the pandemic. How to make new friends and colleagues in a largely online setting? Society as we have known it is under severe and uneven stress. We need to establish the "New Social" -for others, with others. Remember, we are in it together!

**今、巣立っていく君へ**

学生総務担当副学長 久田 満

君と初めて言葉をお交わしたのは赤道直下の国でしたね。でも君はその国よりも「熱」かった。何にでも興味を持ち、どんなことにも挑戦する。少しハラハラさせてくれるところが学生らしくてかわいい。いくつもの企画、そしてあの巨大なイベントを成功させられたのは君の情熱と信念(執念?)。そして仲間を支え。きっと家族も応援してくれたのよね、いつも何でも。不正に対して怒り、不条理には大泣きする姿も忘れられません。来校された教皇様が「大学の価値は卒業生で決まる」とおっしゃいました。君をお見せしたい。一つだけ残念だったのは君が理工の学生だったこと。手元において育ててみたかった。\*このシリーズも今回で本当に終了です。「読んでいますよ」という励ましのお言葉で7回も続けられました。感謝です。なお登場人物はすべて実在の学生をもとに私の願いを込めてアレンジした人達です。

**Sh Language Education (SLE) の理事を務めました。**

この50年、私は自分の夢を実現するために、学内外でやりたい放題やらせてもらいました。上智大学は本当にオープンな学校だと思っています。教職員が、団体のため、世界平和のためにTeam and Women for Others with Othersの精神の実現に向け努力していると思います。上智大学でなければ、自分から実現できなかったと思います。